

表-6.9.2(10) 重要な種の現況における生息環境面積と存在時における減少率

(その1)

No	区分	種	植生区分			現況面積 (ha)	減少面積 (ha)	減少率 (%)	生息環境の植生変化による変化
			自然植生	代償植生	その他				
1	哺乳類	ヤエヤマオオコウモリ	山地林(タブノキ-コミノクロツグ群落) 山地林(ハマイヌビワ-コミノクロツグ群落) 海岸林 近海地低木林(オオハマボウ群落・イボクササギ群落)	二次林(オオバギ-ゲッキツ群落) 二次林(ショウロウクサギ群落) 二次林(トベラ群落) 二次林(アオガビ群落) 二次林(ギンネム群落) 植林(リュウキュウマツ群落)		342.7	24.7	7.2	生息環境のうち、空港施設予定地内の二次林(オオバギ-ゲッキツ群落、トベラ群落、アオガビ群落、ギンネム群落)等が人工草地等に変わることにより、生息環境が7.2%減少する。 本種は主に水岳、カクタ山、タキ山、タキ山東の山地やA、D洞窟周辺の二次林を利用しており、空港施設予定地の二次林の利用は少なく、生息環境の減少率も小さいことから、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
2	爬虫類	セマルハコガメ	山地林(タブノキ-コミノクロツグ群落) 山地林(ハマイヌビワ-コミノクロツグ群落)	二次林(オオバギ-ゲッキツ群落) 植林(リュウキュウマツ群落)		283.6	18.1	6.4	生息環境のうち、空港施設予定地内の二次林(オオバギ-ゲッキツ群落)等が人工草地等に変わることにより、生息環境が6.4%減少する。 本種は、主に水岳、カクタ山、タキ山、タキ山東及びピクミンク等の山地を利用しており、空港施設予定地の二次林の利用は少なく(死体1個体のみの確認)、生息環境の減少率も小さいことから、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
3		キノウエトカゲ	海岸林	二次林(オオバギ-ゲッキツ群落) 放牧地・路傍・休耕地植生(高茎草本) 放牧地・路傍・休耕地植生(低茎草本)	耕作地 牧草地	1735.1	69.1	4.0	生息環境のうち、空港施設予定地内の二次林(オオバギ-ゲッキツ群落)、放牧地、路傍・休耕地植生(高茎草本・低茎草本)、耕作地、牧草地等が人工草地等に変わることにより、生息環境が4.0%減少する。 本種は山地を除く広域を利用しており、生息環境の減少率は非常に小さいことから、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
4		サキシマアオビ	山地林(タブノキ-コミノクロツグ群落) 山地林(ハマイヌビワ-コミノクロツグ群落)	二次林(オオバギ-ゲッキツ群落) 二次林(ショウロウクサギ群落) 二次林(トベラ群落) 植林(リュウキュウマツ群落) 放牧地・路傍・休耕地植生(低茎草本)		499.1	24.1	4.8	生息環境のうち、空港施設予定地内の二次林(オオバギ-ゲッキツ群落、トベラ群落)、放牧地・路傍・休耕地植生(低茎草本)等が人工草地等に変わることにより生息環境が4.8%減少する。 本種は、主にカクタ山等の山地、ゴルフ場及びその周辺の二次林等を広範囲に利用しており、生息環境の減少率は小さいことから、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
5		サキシマハイカガ	山地林(タブノキ-コミノクロツグ群落)	二次林(オオバギ-ゲッキツ群落) 植林(リュウキュウマツ群落)		255.7	17.5	6.9	生息環境のうち、空港施設予定地内の二次林(オオバギ-ゲッキツ群落)等が人工草地等に変わることにより、生息環境が6.9%減少する。 本種は主にカクタ山、タキ山東等の山地やA洞窟周辺の二次林を利用しており、空港施設予定地内の利用は確認しておらず、生息環境の減少率も小さいことから、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
6	鳥類	カイツブリ	湿性草本植生(休耕地湿地・高茎草本) 湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本) 湿性草本植生(水路内湿地)		池沼 河川	58.0	1.1	1.8	生息環境のうち、空港施設予定地内の湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本、水路内湿地)、池沼等が人工草地等に変わることにより、生息環境が1.8%減少する。 本種は、カクタ北側の湿地で1個体が確認されたのみで、空港施設区域内の利用は確認しておらず、生息環境の減少率も小さいことから、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
7		リュウキュウヨシゴイ	湿性草本植生(休耕地湿地・高茎草本) 湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本)		水田 池沼	150.4	1.2	0.8	生息環境のうち、空港施設予定地内の湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本)、水田及び池沼等が人工草地等に変わることにより、生息環境が0.8%減少する。 本種はに事業実施区域周辺の水田を主として利用しており、空港施設予定地内の利用はほとんどなく、生息環境の減少率も小さいことから、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
8		スズクミソコイ	山地林(タブノキ-コミノクロツグ群落) 山地林(ハマイヌビワ-コミノクロツグ群落)	二次林(オオバギ-ゲッキツ群落) 植林(リュウキュウマツ群落) 植林(トキワギョリュウ群落(高木林)) 湿性草本植生(休耕地湿地・高茎草本) 湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本)	耕作地 牧草地 水田	1753.9	66.6	3.8	生息環境のうち、空港施設予定地内の二次林(オオバギ-ゲッキツ群落)、植林(トキワギョリュウ群落)、湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本)、耕作地、牧草地、水田等が人工草地等に変わることにより、生息環境が3.8%減少する。 本種は、主に水岳、カクタ山、タキ山、タキ山東等の山地及びゴルフ場内の二次林を利用しており、空港施設予定地内のゴルフ場二次林内においては営業が確認されているが、利用環境は周辺に広く残され、生息環境の減少率は小さいことから、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
9		チュウサギ	湿性草本植生(休耕地湿地・高茎草本) 湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本) 放牧地・路傍・休耕地植生(低茎草本) 人工草地		耕作地 牧草地 水田	1692.8	13.9	0.8	生息環境のうち、空港施設予定地内の湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本)、放牧地・路傍・休耕地植生(低茎草本)、人工草地(ゴルフ場内)、耕作地、牧草地及び水田等が人工草地等に変わることにより生息環境が0.8%減少する。 本種は、主に水田及びゴルフ場内の人工草地を利用しており、存在時においても着陸帯や法面が緑化されることにより利用環境は周辺に広く残されることから、生息環境の減少率は小さく、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。
10		ムラサキサギ	マングローブ林	二次林(オオバギ-ゲッキツ群落) 湿性草本植生(休耕地湿地・高茎草本) 湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本) 放牧地・路傍・休耕地植生(高茎草本) 放牧地・路傍・休耕地植生(低茎草本)	耕作地 牧草地 水田 海域	1874.7	69.7	3.7	生息環境のうち、空港施設予定地内の二次林(オオバギ-ゲッキツ群落)、湿性草本植生(休耕地湿地・低茎草本)、放牧地・路傍・休耕地植生(高茎草本、低茎草本)、耕作地、牧草地、水田の一部が人工草地等に変わることにより生息環境が3.7%減少する。 本種は、山地を除く広域を利用しており、存在時においても利用環境は周辺に広く残され、生息環境の減少率は小さく、生息環境の変化は極めて小さいものと予測される。